

往馬大社の拝殿と、ご神木の上溝桜（左） 生駒市言分町で



往馬大社は生駒谷の中央に位置し、生駒山をご神体として、人々が住み始めた太古から守り神として鎮座していたと考えられます。

「総国風土記」によると、458(雄略天皇3)年、伊古麻都比古神と伊古麻都比売神を祭ったとされ、鎌倉時代に八幡信



往馬大社 (生駒市)

(住所) 生駒市言分町1527の1
(祭神) 伊古麻都比古神や伊古麻都比売神など7柱
(交通) 近鉄生駒線・一分駅から徒歩

歩約5分
(拝観) 境内自由
(駐車場) 有り(無料)
(電話) 0743・77・8001

くから火の神としてあがめられ、本殿と拝殿の間には、ご神木の上溝桜があります。

大嘗祭(天皇が即位して初めての新嘗祭)に供える米を育てる田を東西から一つずつ選ぶ「斎田点定の儀」で、火おこ

しに使う「火燧木」に上溝桜の枝が献上されます。毎年、体育の日の前日に催される例大祭「火祭り」は勇壮な伝統行事です。氏子が南座と北座に分かれて御供(お供え物)を運ぶ速さ、大たいまつに御串を突き立てる速さ、燃え盛りたいまつを肩に担いで石段を駆け降りる速さを競います。

また、境内の森は「往馬大社の社叢」として県の天然記念物になっており、太古から変わらぬ自然が守られています。(奈良まほろばソムリエの会 副理事長 小野哲朗)

火の神 生駒山がご神体